

(様式1)

職業実践力育成プログラム(BP)への申請について

平成27年10月9日

文部科学大臣殿

横浜市立大学学長
窪田 吉信 印

下記の課程を職業実践力育成プログラムに申請します。

記

①学校名:	横浜市立大学		②所在地:	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22-2			
③課程名:	医学研究科看護学専攻 看護生命科学分野周麻酔期看護学教育課程		④正規課程/履修 証明プログラム:	正規課程	⑤開設年月日:	平成28年4月1日 (予定)	
⑥責任者:	看護学科長 叶谷由佳		⑦定員:	3名	⑧期間:	2年	
⑨申請する課程 の目的・概要:	近年、日本の外科手術発展に伴い、各病院では手術治療対象者が増大している。しかし、麻酔科医の不足により、全国的にその需要に応え切れていない現状にある。麻酔管理体制が整えば、手術件数は増え、各病院では患者の状態に早急に応えていくことが可能となる。諸外国では、周麻酔期看護師が麻酔科医と共に、安全で迅速な麻酔管理体制を採用しており、日本でも一部周麻酔期管理のできる看護師を大学院修士課程で育成している大学から各病院へ輩出されており、さらに育成してほしいという要望が現場から上げられている。このような周麻酔期看護師がさらに育成されれば、日本において手術対応が滞りなく行われ、そして安全な手術遂行が可能と考える。本プログラムは、術前から術後の包括的な患者管理が充実し、患者のQOL向上のために、麻酔管理を安全に実践できる看護師の育成を目的とする。本プログラムで周麻酔期看護師を育成し、全国各地の病院の麻酔管理を担うことで、手術における医療提供の面で地域活性へとつながることが期待される。						
⑩4テーマへの 該当の有無	無	⑪履修資格:	看護師免許取得者、病院勤務歴3年以上有する者				
⑫対象とする職 業の種類:	手術室や外科系に勤務する看護師						
⑬身に付けること のできる能力:	(身に付けられる知識、技術、技能)周麻酔期にある (得られる能力)麻酔管理能力 患者の包括的な麻酔管理:生命維持管理(循環器、呼吸器、全身管理)および疼痛管理						
⑭教育課程:	麻酔管理の基礎的な知識としての解剖学、生理学、薬理学、麻酔科学、周麻酔期看護学概論は、周麻酔期看護学特講Ⅰ～Ⅳとして本学医学科・看護学科教員、各病院医師で10単位(150時間)行う。特講は座学のみでなく、思考能力を育成するため、必ず多職種間でグループディスカッションを行う。演習においては、麻酔に対する生体反応のモニタリングの知識と技術と総合力を修得するため、麻酔管理のシミュレーションを2単位(60時間)、麻酔管理上の問題解決能力を修得するため、文献抄読およびクリティークを2単位(60時間)実施する。シミュレーションの実施は、本学附属病院麻酔科・看護部、手術を実施している各病院医師の指導協力のもとで行う。実習は、CureとCareの側面より包括的アセスメントを行うために、合併症のない全身麻酔事例において、周麻酔期の麻酔管理の流れと看護ケアに関する技術が実践できるよう、本学附属病院麻酔科・看護部、各病院医師の指導協力のもとで10単位(450時間)行う。						
⑮修了要件(修 了授業時数等):	共通科目14単位(210時間)、特講10単位(150時間)、演習4単位(120時間)、実習10単位(450時間)、課題研究4単位(120時間)						
⑯修了時に付与 される学位・資格等:	周麻酔期看護学教育課程 修士(看護学)						
⑰総授業時数:	42単位	⑱要件該当授 業時数:	22単位	該当 要件	1,2,3,4	⑲要件該当授業時数 ／総授業時数:	52%
⑳成績評価の方法:	各講義、演習、実習の単位は、講義の出席状況、実技試験、レポート、プレゼンテーション等を総合的に評価する。また周麻酔期看護学における論文を提出し、審査・試験を経て修得となる。						
㉑自己点検・評 価の方法:	本プログラム体制に教育、運営、評価に対して各種委員会を設置し、プログラム終了後は、その内容においての修了者の就職状況および修得能力を委員会で評価し、公表する。						
㉒修了者の状況に 係る効果検証の方 法:	修了者および勤務先所属責任者に対し、周麻酔期における麻酔管理能力(看護技術、麻酔管理手術件数、勤務状況など)の調査を行い、評価委員会において修得能力の総合的評価を行う。						
㉓企業等の意見 を取り入れる仕 組み:	本プログラムの運営には人材輩出先の病院の意見を取り入れることが不可欠なため、教育課程、自己点検・評価に関する協定を締結した病院(本学附属2病院を筆頭に聖路加国際病院、鳥取大学医学部附属病院、横浜市内の中核病院、神奈川県下の病院等)から、委員を選出し、委員会のメンバーとすることで以下の内容に取り組む。 (教育課程の編成・検討) 協定締結病院の麻酔科、看護部等のメンバーを委員に加えて組織する教育課程検討委員会を設置し、実践現場での意見を取り入れ、教育課程の各種項目を検討する。 (自己点検・評価) 本プログラムの内容は大学院の教育課程の中にあるため、プログラム内容の点検や評価は大学院内に評価委員会を設置する。教育を点検し迅速に反映させるため、協定締結病院の麻酔科および看護部のメンバー、および大学院医学研究科教員で構成する。教育課程検討委員会および運営委員会が出された意見は、評価委員会にて点検、評価し、実施、毎年運用されたプログラムについては評価を行っていく。						
㉔社会人の受講 しやすい工夫:	夜間の開講、長期履修制度有						
㉕ホームページ:	(URL) http://www.yokohama-cu.ac.jp/nur/dn/index.html						

事務担当者名:	和田 悠佑	所属部署:	医学・病院統括部 福浦キャンパス学務・教務課 看護学担当
連絡先:	(電話番号) 045-787-2505 (E-mail) y_wada@yokohama-cu.ac.jp		

*パンフレット等の申請する課程の概要が掲載された資料を添付してください。

(様式2)

授業科目の概要について

学校名:	横浜市立大学
課程名:	医学研究科看護学専攻看護生命科学分野 周麻酔期看護学教育課程

要件該当授業時数:	22単位
要件該当授業時数/総授業時数:	22/42単位

分類	科目名	配当年次	授業時数・単位数	企業等	双方向	実務家	実地	担当教員・実務家名	教員・実務家の所属
選択必修	周麻酔期看護学特講Ⅰ	1	2					赤瀬智子	医学研究科看護生命科学
選択必修	周麻酔期看護学特講Ⅱ	1	2					赤瀬智子	医学研究科看護生命科学
選択必修	周麻酔期看護学特講Ⅲ	1	2					赤瀬智子	医学研究科看護生命科学
選択必修	周麻酔期看護学特講Ⅳ	1	4	○	○	○	○	赤瀬智子/ 後藤隆久 (実務家教員)	医学研究科看護生命科学 /横浜市立大学附属市民 総合医療センター副院長・ 横浜市立大学大学院医学 研究科麻酔科
選択必修	周麻酔期看護学演習Ⅰ	1	2	○		○	○	後藤隆久 (実務家教員)	横浜市立大学附属市民総 合医療センター副院長・ 横浜市立大学大学院医学 研究科麻酔科
選択必修	周麻酔期看護学演習Ⅱ	1	2					赤瀬智子	医学研究科看護生命科学
選択必修	周麻酔期看護学専門実習Ⅰ	1	4	○	○	○	○	後藤隆久 (実務家教員)/赤瀬 智子	横浜市立大学附属市民総 合医療センター副院長・ 横浜市立大学大学院医学 研究科麻酔科/医学研究科 看護生命科学
選択必修	周麻酔期看護学専門実習Ⅱ	2	6	○	○	○	○	後藤隆久 (実務家教員)/赤瀬 智子	横浜市立大学附属市民総 合医療センター副院長・ 横浜市立大学大学院医学 研究科麻酔科/医学研究科 看護生命科学
選択必修	周麻酔期看護学課題研究	2	4	○	○	○	○	赤瀬智子/ 後藤隆久 (実務家教員)	医学研究科看護生命科学/ 横浜市立大学附属市民総 合医療センター副院長・ 横浜市立大学大学院医学 研究科麻酔科
必修	看護研究方法論	1	2					千葉由美	医学研究科がん・先端成人 看護学
選択必修	高度実践フィジカルアセスメント論	1	2					赤瀬智子	医学研究科看護生命科学
選択必修	高度実践薬理学	1	2					赤瀬智子	医学研究科看護生命科学
選択必修	高度実践生理学・病態生理学	1	2	○	○	○		赤瀬智子/ 佐藤隆(実 務家教員)	医学研究科看護生命科学/ 横浜市立大学附属病院呼吸 器内科
選択必修	看護倫理学	1	2					勝山貴美子	医学研究科看護管理学
選択必修	看護統計学	1	2					廣瀬幸美	医学研究科小児看護学
選択必修	看護管理学	1	2					勝山貴美子	医学研究科看護管理学
合計:	16科目					42			単位

* 申請する課程で受講可能な全ての科目について記入してください。

* 「企業等」、「双方向」、「実務家」、「実地」の欄に○を入れた科目については、要件に該当することを明記したシラバスを添付してください。